

令和6年度第2回宜野湾市地域公共交通推進協議会 議事概要

日時：令和7年2月10日（月） 10時00分～

場所：P's SQUARE 5階 D会議室

新たな交通サービスの導入検討（進捗報告）

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
1	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後の方向性として、地域を限定して新たに公共交通サービスを確保できるのか検討するという考えは一定程度理解できるが、新たな交通サービスがメインになって既存の公共交通のサービス低下に繋がらないようにしてほしい。 ✓ 市内1周線に関する説明があったが、検討された平成24年当時よりも路線バスのサービスは向上しているのではないか。また、路線バスが運行しているにも関わらず、利用者が認識していない状況もあると思うので、情報提供も行っていくべきだと考える。 ✓ 公共交通空白地域の定義をバス停から半径300mの圏域外と設定している根拠を教えてください。（小川委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 路線バスの利用促進については、事務局としても必要性を認識している。資料にも記載のあるとおり、新たな交通サービスと路線バスの連携による相乗効果、路線バスの利用状況の分析も行っていきたいと考えている。また、情報提供についても必要だと認識している。 ✓ 公共交通空白地域の定義は決まった基準はないが、国土交通省の「地域公共交通づくりハンドブック」では、都市部においては駅から半径500m、バス停から半径300mの圏域外が公共交通空白地域として捉えられることが多いと記載されている。その他、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」では、「公共交通沿線地域」の定義として、バス停から半径300m以内と記されており、それ以上距離が離れると公共交通空白地域となると考えている。 ✓ また、平成24年度にコミュニティバスを検討した際にも、バス停から半径300mの圏外地域を公共交通公共交通空白地域としており、今回の検討でもこちらを踏襲している。地域の実情、利用者目線も踏まえた上で、判断していきたいと考えている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治会ヒアリングを行っていくということだが、宜野湾市老人クラブ連合会にも意見聴取していただきたい。（米須委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後ご説明をさせていただきたいと考えている。

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
3	<p>✓ ジャンボタクシー、小型タクシーの導入を検討しているということだが、健康増進課やプロジェクト推進室では、グリーンスローモビリティの導入を検討する動きもあり、先進地への視察なども行っている。連携が取れていない印象を受けるが、実際はどうか。取れていないなら、一緒に検討した方が効率的ではないか。(佐藤委員)</p>	<p>✓ 今年度に入ってから複数回、健康推進部との意見交換をしている。グリーンスローモビリティの視察については、松戸市など先進地の視察を行うなど、事例調査の段階と認識している。今回の検討でも、健康まちづくりの観点が必要になると考えているため、今後もしっかり連携して、情報共有を図っていきたい。</p>
4	<p>✓ 資料 17 頁に記載の「路線バスを利用しない理由」について、各地区最も多い回答が「その他」となっているが、どういった内容が多いのか。(喜屋武委員)</p>	<p>✓ 「自家用車を利用している」、といった意見が多かったと認識している。</p>
5	<p>✓ 公共交通空白地域以外でも、バス停までアクセスしづらい人はいるのではないかと思う。沖縄県は車社会であり、一家に2～3台の車がある家庭も珍しくない。一方で、経済的に弱い立場にいる方は、車の維持のほか、タクシー利用も難しく、移動手段に経済的な格差があるのではないか。新たな交通サービスではそういった方々も掬い上げ、こぼれないように検討していただきたい。</p> <p>✓ (崎原委員)</p>	<p>✓ ご提言として受け止め、今後に繋げていきたい。</p>
6	<p>✓ 今回の検討において、ターゲットはどのように考えているか。例えば、高齢者に絞るのか、高齢者を独居や高齢者のみ世帯などさらに細分化するのか、もしくは障がいのある方や中高生など、いわゆる交通弱者含めるのか等、詳細を教えてください。(神谷委員)</p>	<p>✓ 65歳以上の高齢者をメインターゲットとして考えている。</p>

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
7	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アンケート結果について、ターゲットに合わせてもう少し絞って整理をすると良いと考える。例えば路線バスを利用しない理由についても、現役世代や介護が必要な高齢者など、そもそもバスを利用しない層を除いた上で、運転に不安が出てきている人や介護を受ける前の段階にいる人など、狭めた分析をした方が良い。 ✓ 加えて、現在提供している輸送サービスも整理をした方が良い。例えば、高齢者のレクリエーションのための送迎、対象者を限定したタクシーチケットの配布など。次回協議会までで構わないので、情報を整理していただきたい。 ✓ 公共交通空白地域の定義であるバス停から半径 300m 圏外については、勾配等も考慮した方が良い。各ガイドで示されている 300m は基本的に健常者を想定しており、メインターゲットを高齢者とするのであれば、勾配や起伏も意識していただきたい。 ✓ 最後に、全国の AI オンデマンドの事例をみると、ほとんどは行政が財政負担をしているが、一部では採算が取れているところもある。上手くいっている地域に共通するのは、行政主導ではなく地元の住民が主体的に取り組んでいる点である。今回の検討においても、行政が一方向的にサービスを提供するのではなく、住民を巻き込んでいくことを意識していただきたい。 (神谷委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ご指摘いただいた点については、次の分析で活かしていきたい。 ✓ また、現在提供している輸送サービスについては週 1 回のミニデイサービスにおいて、公民館までの移動支援に対する補助が行われていると聞いている。担当部に確認の上、内容を整理していきたい。

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
8	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 資料 2 頁に記載のある隣接する市町村との連携について、現時点でどのような必要性がありそうか、イメージがあれば教えていただきたい。 ✓ 琉球大学病院が 1 月に開院したが、西普天間住宅地区周辺の渋滞状況は現在どのような状況か、また何か新たに対応が必要であればどんな方向性で検討しているのか、教えていただきたい。(佐久本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 隣接する市町村との乗り入れや共同運行については、住民の移動ニーズを考える上で必ずしも市域にこだわる必要はないという考えで記載している。実際に、住民の移動状況を分析すると、隣接する市町村の病院や商業施設に移動しているケースを複数の地域で確認している。当然、隣接する市町村との協議・調整が前提にはなるが、利便性を高めるという観点で、乗り入れの可能性も検討していきたい。 ✓ 琉球大学病院の開院に伴う交通量の変化については、市としても懸念しており、かねてよりソフト対策を中心に検討している。開院後に自治会の会長に話を伺ったところ、交通量は増えているものの、現時点では大きな問題はないと聞いている。4 月には医学部の移転も予定されているため、今後も引き続きモニタリング・対策を検討していきたいと考えている。
9	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 琉球大学病院周辺の渋滞状況について補足したい。宜野湾市と琉球大学共同のパンフレット作成や、フレックスタイムの導入など、渋滞緩和の取り組みや、普天間交差点で右折帯を増やすなどの対策を行っている。 ✓ 西普天間住宅地区から国道 58 号に抜ける市道喜友名 23 号の完成が遅れており、ご迷惑をおかけしている。今月中には開通の予定。さらにインダストリアルコリドー地区が返還されれば、そこにもあと 1, 2 本、国道 58 号に抜ける道路を設けることを計画しており、力を入れていきたいと考えている。 (和田会長) 	—